

# アサヒホールディングス株式会社 2022年3月期通期決算説明資料

2022.4.27

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



I. **2022年3月期通期決算**  
(2021年4月～2022年3月)  
*Financial Results for FY2022.3*

II. **参考資料**  
*Appendix*

## 経営成績

2022/3期 決算実績	営業利益 264億円 (前年同期比 +13億円)	※ 5期連続の過去最高益更新
2023/3期 業績予想	営業利益 240億円 予想 (21年度実績比 △24億円)	※ 除却等の影響で減益予定

## トピックス

年間配当	2022/3期予定：90円 (前年度から年間5円の増配) 2023/3期予想：90円 (2022/3期水準を維持予定)
大型の設備投資実行	中期経営計画3か年で総額227億円の投資実行予定。 今年度の投資総額は83億円で、新設の坂東工場は2022年4月稼働開始。
RJC CoC認証の取得	Responsible Jewellery Council (責任あるジュエリー協議会) よりCoC認証*を取得。 2019年に取得したCoP認証*とのダブル認証取得は国内初
環境省採択の実証事業	「グリーン水素サプライチェーン構築に向けたシステム開発」を環境省に提案し、 補助事業として採択
気候変動対策	2050年カーボンニュートラルの実現を目指すことを宣言 TCFD提言に賛同し、TCFD提言に基づく開示を本日実施
新型コロナ	業績面での影響は限定的
ロシア・ウクライナ情勢	該当地域において事業展開していないため、直接的な影響はない 貴金属価格の高騰に伴い、一部取引先からの回収量が増加するも、2022/3期通期業績への影響は軽微

## ✓ 2022/3期実績

貴金属事業が好調 連結業績を牽引

増収増益

5期連続の過去最高益更新

- ✓ 貴金属価格の上昇
- ✓ 貴金属製品販売量の増加

## ✓ 2023/3期予想

既存設備における除却損の発生

増収減益

- ✓ 除却損により約20億円の減益
- ✓ 中期経営計画通り

〔単位：億円〕

	2021/3期	2022/3期		2023/3期	
	実績	実績	前期比増減	予想	増減
売上収益	1,648	1,924	277	2,000	76
営業利益	251	264	13	240	△24
営業利益率	15.2%	13.7%	△1.5%	12.0%	△1.7%
税引前利益	261	263	2	235	△29
当期利益 <sup>※1</sup>	257	187	△70	160	△27
設備投資	53	83	30	65	△18
減価償却費	25	27	2	30	3

※1 親会社の所有者に帰属する当期利益。

## 貴金属事業

国内・アジアの貴金属リサイクル分野は、ICTや5G関連の回収量は増加したが、デンタルや自動車関連の回収量が減少  
北米精錬分野は、製品加工・販売が増加

分野	事業環境
デンタル	市場縮小に加え、感染症対策による患者数制限が続いており、回収量は減少傾向が継続する見込み
宝飾	買取需要は緩やかに回復して回収量は増加傾向、宝飾メーカーからの回収量も回復
触媒	国内外において、自動車販売台数の減少と海外の輸出規制の影響により回収量は減少
エレクトロニクス分野	半導体供給不足等の減産影響を受けたが、ICT/5G関連の生産が好調で回収量は増加
北米精錬	製品加工・販売などの取引が増加

## 環境保全事業

教育機関や自動車業界、医療業界、化学産業からの回収量は増加したが、建設業界や外食業界は依然として低迷。

業界	事業環境
教育・研究機関	教育機関の回収量が増加
建設	2020年度の落ち込みに比べ住宅着工件数は回復基調にあり、木くずなど増加傾向
自動車	電子部品不足の影響を受け、工場は生産調整を行うなど不安定な状況にあり廃液回収量が減少
食品	外食需要は依然低迷しており、残渣物やガラスびんの回収量が減少
医療	医療系廃棄物の回収量、焼却処理量は増加
化学	消毒薬関連等の回収量が増加

## 貴金属リサイクル分野（国内・アジア）

### ✓ 2022/3期実績

貴金属価格上昇と貴金属販売量の増加

→ 増収・増益

### ✓ 2023/3期予想

坂東工場の稼働開始による既存設備の除却等の発生見込み

→ 増収・減益

## 北米精錬分野

### ✓ 2022/3期実績

製品加工・販売が増加したがトレーディング取引が減少

→ 減収・減益

### ✓ 2023/3期予想

新規事業の投資コストの先行とストックテイクの平準化

→ 減収・減益

〔単位：億円〕

貴金属	2021/3期
	実績
売上収益	1,448
営業利益	240
利益率	16.6%

2022/3期	
実績	前期比増減
1,739	291
266	26
15.3%	△1.3%

2023/3期	
予想	前期比増減
1,810	71
240	△26
13.3%	△2.0%

- ✓ 金の回収量は減少したが、採算性の低い取引由来であったため業績への影響は軽微  
→2023/3期は昨年を底打ちに全体的には回復基調にある。
- ✓ パラジウムは歯科医院における診療制限と新車生産の減少影響により、回収量が減少  
→2023/3期も上記状況が一定程度継続するため、2022/3期並みの回収量を見込んでいる。

Au

18,267

16,578

18,054

2021/3期  
実績2022/3期  
実績2023/3期  
計画

Pd

6,821

6,280

6,374

2021/3期  
実績2022/3期  
実績2023/3期  
計画

Pt

4,115

4,997

5,009

2021/3期  
実績2022/3期  
実績2023/3期  
計画

単位：kg

## 環境保全事業

### ✓プラス要因

半導体・電子部品関連や医療関連取引が活発、産業廃棄物処理量の増加

### ✓マイナス要因

インターセントラル社の連結除外等

→減収・減益

### ✓2023/3期予想

工業生産活動の回復により、産業廃棄物の処理量は徐々に増加する見込み

JWガラスリサイクル社の連結除外による影響

→増収・減益

[単位：億円]

環境保全	2021/3期		2022/3期		2023/3期	
	実績		実績	前期比増減	予想	前期比増減
売上収益	200		186	△14	190	4
営業利益	38		37	△1	35	△2
利益率	19.2%		20.0%	0.8%	18.4%	△1.7%



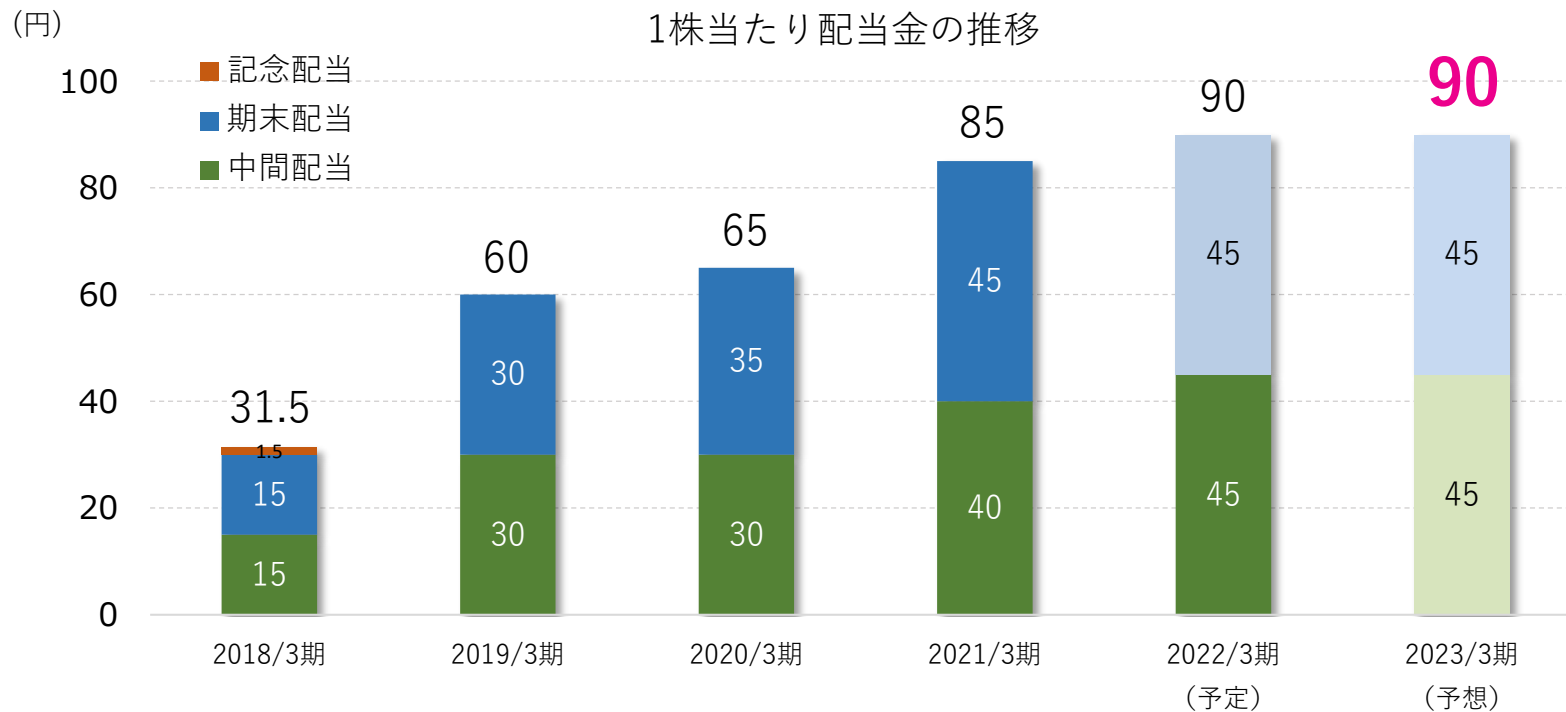
〔単位:億円〕

	2021年 3月末	2022年 3月末	増減	備考
流動資産	1,920	2,418	498	
営業債権	1,008	1,514	507	営業債権残高および増加額の大部分は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権。
棚卸資産	635	634	△ 1	棚卸資産残高および減少額の大部分は貴金属リサイクル事業の貴金属含有原材料/仕掛品/製品。貴金属含有量を分析してから購入し、同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、品質劣化リスクともに極めて限定的。
その他	277	269	△ 7	
非流動資産	528	566	38	
資産計	2,448	2,984	536	
負債	1,469	1,933	464	
社債及び借入金	1,048	1,509	461	借入金残高の大部分は北米事業の前渡し取引等の借入金。原料入荷後に貴金属含有量を分析し、この範囲内で借入による前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的。
その他	421	423	3	
資本	979	1,051	72	
資本・負債計	2,448	2,984	536	

〔単位:億円〕

	2022/3期	備考
営業活動によるキャッシュフロー	111	
棚卸資産の増減額	△1	減少額の大部分は貴金属リサイクル事業の <b>貴金属含有原材料/仕掛品/製品</b> 。貴金属含有量を分析してから購入し、同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、品質劣化リスクともに極めて限定的</b> 。
営業債権及び その他の債権の増減額	△376	増加額の内、 <b>△385億円は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権の増加額</b> 。原料入荷後に貴金属含有量を分析し、この範囲内で借入による前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的</b> 。
営業債務及び その他の債務等の増減額	327	増加額の内、 <b>300億円は北米事業の前渡し取引等による借入金の増加額</b> 。借入金の増加額の内、北米事業の前渡し取引等による借入金の増加額は、財務CFではなく、営業CFの営業債権の増加額として表示される。この借入金はすべて前渡し取引等の地金調達に使われるため、 <b>品質劣化リスクや貸倒リスクはない</b> 。先物取引で貴金属価格をヘッジしているため、 <b>価格変動リスクも極めて限定的</b> 。
その他	161	
投資活動によるキャッシュフロー	△78	
財務活動によるキャッシュフロー	△60	
借入金の増減	31	
配当金の支払い額	△71	
その他	△21	
換算差額	△11	
現預金の増減額	△39	

基本方針：成長戦略のための設備投資やM&Aに必要な内部留保充実を図りながら、配当性向40%を目処とし、現在の年間配当水準から目減りさせず、安定的に配当を継続する



1株当たり利益(円)	135.39	114.07	125.12	326.90	231.27	203.45
配当性向(%)	23.3	52.6	52.0	26.0	38.9	44.2

※2021年4月1日に1:2の株式分割を実施しており、2020年度までの1株当たり配当金および1株当たり利益は分割後のベースに換算して表示

## 投資目的：事業拡大・利益率向上 第9次中期経営計画3年投資総額：227億円



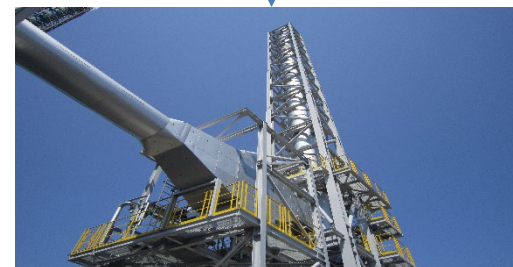
坂東工場

✓ アジア最大級の最先端リサイクル工場



北米事業  
(精錬&倉庫設備)

✓ 倉庫事業の立上げ&既存設備強化



横浜焼却炉\*イメージ

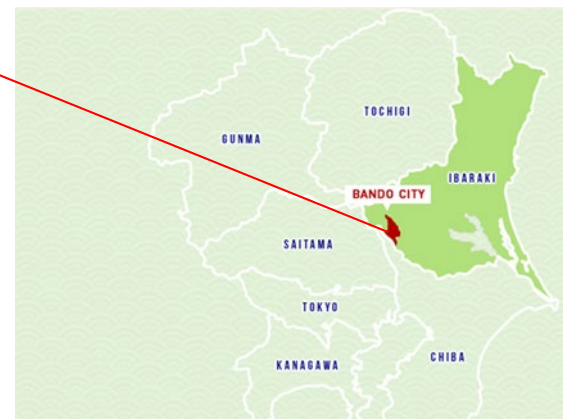
✓ 東日本地域の廃棄物を大型焼却拠点

単位：億円

	2022/3期		2023/3期		備考
	中期経営計画	実績	中期経営計画	修正計画	
貴金属事業	63	77	32	58	—
国内	47	40	19	22	水素サプライチェーン構築への投資として約3億円
海外	16	36	13	36	21年度に完成予定施設の期ずれと追加投資
環境保全事業	8	7	22	7	焼却プロセスの見直しによる投資計画の一部見直し
総計	71	83	54	65	3か年の投資総額に変更はない

## ✓ アジア最大級の最先端リサイクル工場

- 原材料回収から製品化までの工程を集約
- 最先端IoT技術の導入により、生産効率を向上
- BCM（事業継続マネジメント）の観点で優れた工業生産地域



© BANDO CITY.

ご参考：坂東市強靱化計画

2011年の東日本大震災の教訓を受けた坂東市が作成した「坂東市強靱化計画」にてBCMやサプライチェーンの観点から「目標5 経済活動を機能不全に陥らせない」を目標に掲示。

坂東市国土強靱化計画より一部引用 <https://www.city.bando.lg.jp/page/page006456.html>

- ✓ 2021年12月13日、2050年カーボンニュートラル（CN）を目指すことを宣言
  - 2030年、エネルギー由来のCO2排出量を2015年比50%削減
  - 2050年、非エネルギー由来のCO2排出量も含め、Scope1, 2全体でCN達成を目指す
- ✓ 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言にも賛同し、部門横断のTCFD対応チームを立ち上げシナリオ分析等を実施。リスクと機会を整理し、ガバナンスやリスク管理体制等を強化

推奨される開示項目	取り組み状況／対応方針
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CEOを委員長とし、事業部門・技術部門・管理部門の役員等で構成するサステナビリティ委員会において気候変動問題を経営レベルで審議</li> <li>• サステナビリティ委員会の下、気候変動分科会を設置し、気候変動施策を推進</li> <li>• 取締役会においてサステナビリティ委員会の審議事項を監督する体制を構築</li> </ul>
戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 短期・中期・長期の気候変動に関するリスクと機会を、4°C及び1.5°Cでシナリオ分析を実施</li> <li>• 事業マテリアリティの一つに「CO2排出量の削減」を設定</li> </ul>
リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シナリオ分析等により抽出されたリスクや目標については、対応状況をサステナビリティ委員会及び取締役会に定期的に報告</li> <li>• 合わせてグループリスク管理部にも報告することで、当社グループ全体のリスク管理体制に組み入れて管理</li> </ul>
指標と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2030年までにエネルギー由来CO2を2015年度比50%削減する目標を設定済。合わせて2050年カーボンニュートラル達成（Scope1及びScope2）を目指すことを宣言済</li> <li>• 2020年度のエネルギー由来CO2削減実績：2015年度比▲12%</li> <li>• Scope1排出量は84,780tCO2、Scope2排出量は17,894tCO2</li> </ul>

<https://www.asahiholdings.com/sustainability/environmental/globalwarming/>



左記QRコードからも詳細をご確認頂けます。





I. 2022年3月期通期決算  
(2021年4月～2022年3月)  
*Financial Results for FY2022.3*

II. **参考資料**  
*Appendix*

## 貴金属リサイクル分野

精錬手数料は固定的な安定収益。  
そこに収率差異による収益がプラス。

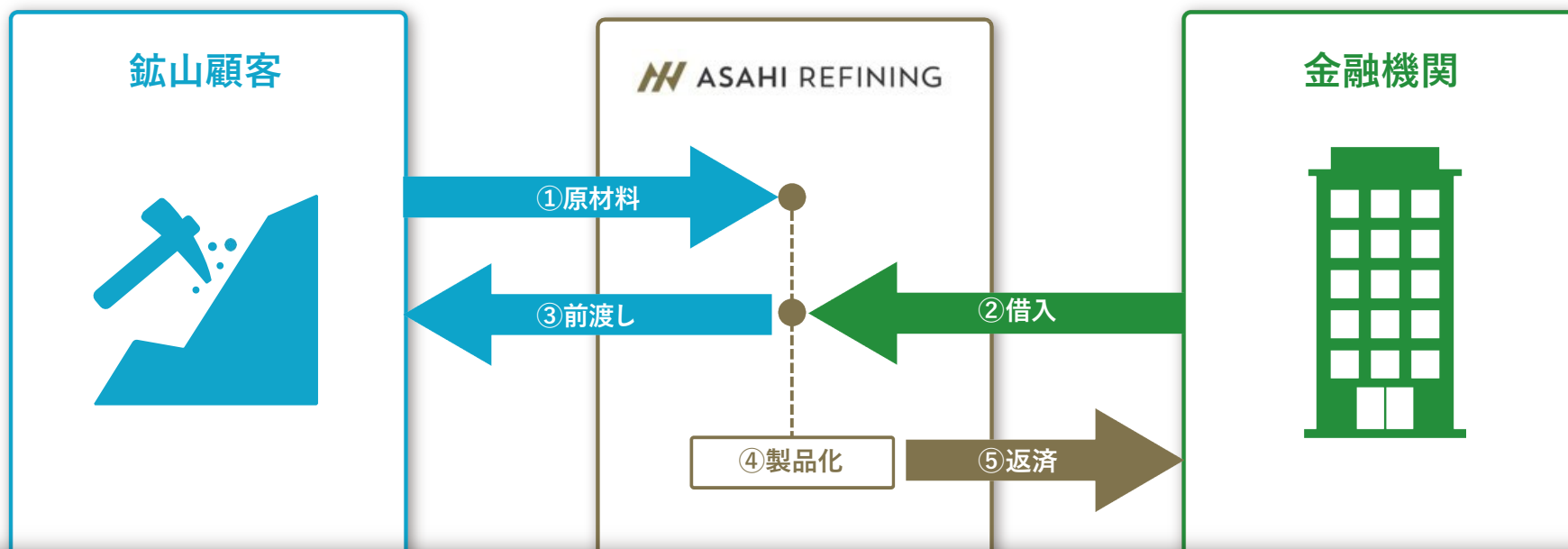
## 北米精錬分野

精錬手数料は安定収益。金融収益は原料入荷量が増加すれば収益機会が増える。

事業分類	区分	収益影響
貴金属リサイクル	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 回収量が増えれば精錬手数料は増加する。</li> <li>■ 精錬手数料の単価は前処理が難しいものほど単価が高くなるため、難処理物の回収割合が高くなれば平均単価は高くなる。</li> </ul>
	収率差異 (実収率と契約収率との差異=フリーメタル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルが増加する。</li> <li>■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。</li> </ul>
北米精錬	精錬手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 精錬原料(ドーレ)の入荷量が増えれば手数料は増加する。</li> <li>■ 長期契約のため手数料単価は短期的には変動しない。</li> </ul>
	収率差異 (実収率と契約収率との差異=フリーメタル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術力向上、工程改善により、実収率が上がればフリーメタルの数量が増加する。</li> <li>■ 相場が上昇すればフリーメタルによる収益が増加する。</li> </ul>
	金融収益	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 原料入荷量が増加すれば金融取引による収益機会が増加する。</li> <li>■ 鉱山との間の契約で前渡し金利の利率が改善すれば収益は増加する。</li> <li>■ 前渡しの期間が長くなれば収益は増加する。</li> <li>■ メタル調達コストが下がれば金利スプレッドが拡大し、金融収益は増加する。</li> </ul>



- ✓ 原材料入荷から製品返却までの納期を短縮して製品を返却する「前渡し」を提供
- ✓ 契約納期前のメタル返却に応じることで、顧客から「前渡し日数分の金利」を得る
- ✓ 原材料を受領してから前渡しを行うため、貸倒リスクはない



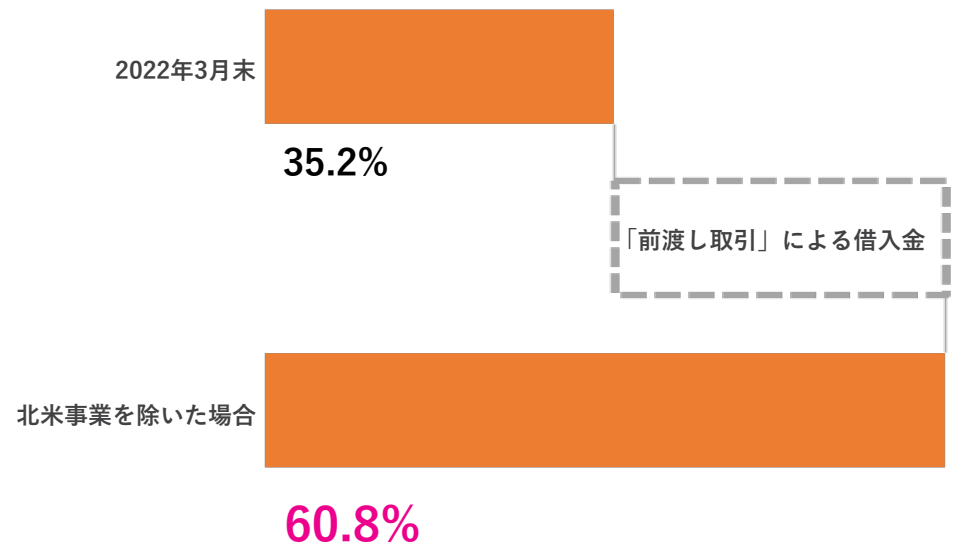
≫ 仕組み金融等の新たなファイナンスサービス開発

## 財務状態

〔単位:億円〕

	2022年 3月末	北米事業を除いた 場合
流動資産	2,418	1,163
非流動資産	566	566
資産計	2,984	1,729
負債	1,933	678
資本	1,051	1,051
資本・負債計	2,984	1,729

## 自己資本比率



- ✓ 金融サービスに必要な大規模資金の低金利での調達を可能に
- ✓ ファイナンスの多様化により精錬事業の国際的競争力および収益力を強化

- アサヒプリテック(株)は、2021年7月14日にRJC※（Responsible Jewellery Council：責任あるジュエリー協議会）のCoC認証（Chain of Custody：加工・流通過程管理）を取得
- 2019年7月29日にRJC CoP認証（Code of Practices：行動規範）を取得しており、RJC CoPおよびCoCのダブル認証を取得しているリファイナーは、国内では当社のみ



SDGs重点テーマの1つである「人・社会・環境にやさしい貴金属供給」に対応するため、人権や環境に配慮した貴金属製品として世界中のお客様に安心してご利用いただける「アサヒブランド」の構築と維持に努める

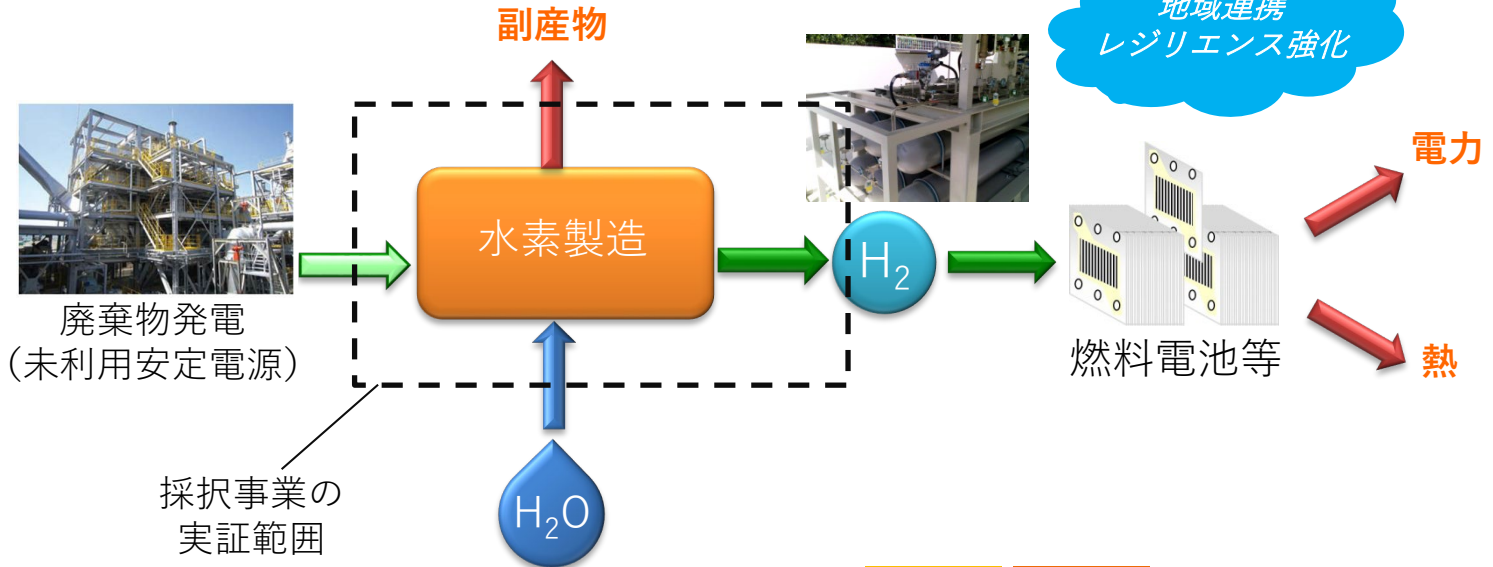


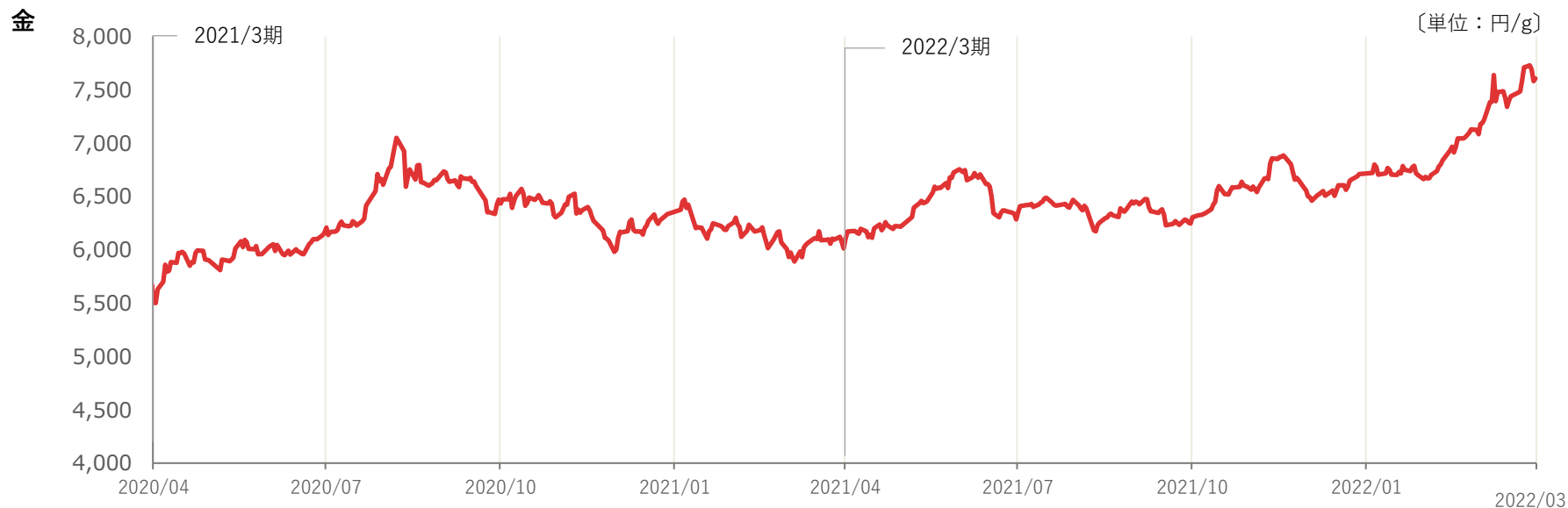
※RJC（Responsible Jewellery Council：責任あるジュエリー協議会）：  
金やプラチナ、ダイヤモンドなどを取り扱う宝飾業界を対象とし、取引の透明性や倫理・環境面での取り組みを評価する国際的非営利団体

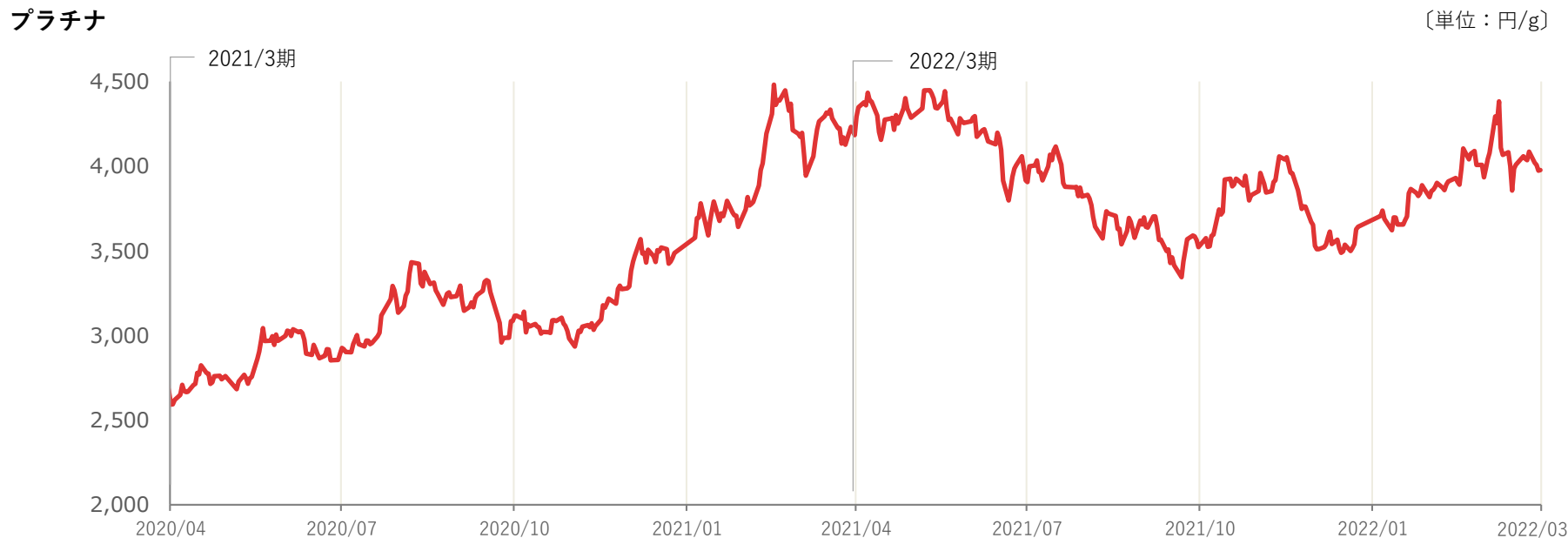
- ✓ アサヒプリテック(株)は、環境省の「CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」において、エフシー開発株式会社、株式会社X-Scientia、三井住友信託銀行株式会社と共同で、「グリーン水素サプライチェーン構築に向けたシステム開発」を提案し、補助事業として採択
- ✓ 廃棄物発電所における未利用の電力を活用し、水素の製造原価を大幅に低減することが可能な水素製造システムを開発
- ✓ 安価な水素を製造・外販することで水素の普及拡大に貢献し、温室効果ガスの排出削減に繋げる

副産物の販売により事業性を確保し  
水素の普及拡大に貢献

➡ CO<sub>2</sub>排出削減







## 期中平均価格

貴金属 価格 (1gあたり)	2021/3期		2022/3期	
	期中 平均価格		期中 平均価格	増減
金	6,245		6,601	356
パラジウム	7,618		8,629	1,011
プラチナ	3,306		3,906	600